

## 【問題を見逃さないために】

学校での「いじめ」が原因と考えられる子どもの自殺のニュースが報道される度に胸が痛みます。「いじめ」がよくないことであることは誰もが分かっているはずですが、でも、自分がしていることが「いじめ」にあたる行為なのかどうか気づくことができない子どもがいることも教育現場にいてときどき感じます。

新聞には、「なかなか見えづらい子どもの世界で起こっている事態を把握できない力のない教員が多い」という厳しい指摘もあります。教師に求められるものは、学習指導の力だけではないことは言うまでもありません。私は、子どもの表情から何かを察する力が大切であろうと考えます。この「察する」というのは日本的な文化として長く大切にされてきていたはずなのですが、残念ながら今では「表現できない人間は駄目」という感覚を持つ人が増えてきているように思います。これは教育の世界に限ったことではなく、一般社会でも同じことが言えるのではないのでしょうか。また、日経新聞には、「いじめの国際比較研究」で日本のいじめの特徴は、

《①暴力よりも暴言、無視、仲間外しが目立つ ②多人数で異質な者、個性的な者をいじめることが多い

③学級がいじめの現場になりやすい》とありました。特に②については、自分と異なる面を持つ人のことを認め、受け入れることはそう簡単にはできるようになることではないかもしれませんが、日々の生活の中で様々なことを経験しながら身につけてほしいと思うことです。学校では、集団での行動、学習の機会が多く、全員が同じ課題に取り組むことが求められることがあります。しかし、そういう中でも一人ひとりが少しずつ異なる考えや思いを持っていることを忘れないようにしなければならないと考えます。

桐光学園小学校では、毎日4時15分から教職員が一同に集まり「連絡会」を行っています。その会では、学年ごとに一日の生活の中での問題点や特に注意して見守ってほしい子どものことなどについての報告をし合い、全教職員の共通理解を図ることができるようにしています。いじめ、子ども同士のトラブル、保護者の皆さんからのご意見についても必要に応じて学校全体で考えるようにしています。

ここでテーマにあげた「問題を見逃さない」ためにも、教員皆が互いに協力し合っていく学校でなければならないと考えます。

## 【校内バザー】

校内での児童のふれ合い、高学年が担当している委員会活動の紹介、低学年の子どもたちに買い物の機会を持たせお金の使い方を学ばせることなどを目的とした「校内バザー」を行うことにしました。今回は、委員会ごとに自分たちの活動の様子を知らせることができるような商品を作って販売します。また、委員会によっては低学年の子どもたちに楽しく遊んでもらうことができるような企画を考えました。低学年の子どもたちは、桐光マネーを各自200円ずつ持ち、買い物をしたり企画に参加したりします。はじめにあげた目的がどの程度達成できるかわかりませんが、準備する高学年の子どもたち、そこに参加する低学年の子どもたちにとって有意義な時間になることを期待しています。

## 【マラソン大会】

運動会に続いて行われる体育行事として毎年行っている行事です。今年も10月下旬から練習を始め、先日無事に大会を実施することができました。練習を始めたころは、少し走るだけで疲れてしまい歩いてしまう子が多かったのですが、練習を重ねていくうちに子どもたちの走り方にも大きな変化が見られるようになりました。マラソンは体調の悪いときに無理に行くと重大な事故にも結びつくものであるため、教員も緊張感を持って毎日の練習を見守ってきました。保護者の皆さんには大会当日子どもたちのそれまでの練習への取り組みの結果をご覧いただきました。参加者全員が完走するのが当たり前と思われる方もいらっしゃるかもしれませんが、それは子どもたち一人ひとりの努力なしではできないことです。

ある学級の先生の日誌に、「マラソンを嫌がる子が多い」「マラソン大会なんてなければいいの」と言っている子がいる」とありました。どんな行事においても、子どもの中には「いやだな・やりたくないな」と思う子どもがいることは承知していますが、そのように考える子どもたちも前向きに取り組めるようにすることが大切なのではないかと考えます。ご家庭でもお子さんのそのような声を聞くことがあるかもしれませんが、そういうときには是非がんばりを促すような声かけをお願いしたいと思います。

また、マラソン大会が終わってからこどもの国で遊ぶ子どもたちも多かったようです。保護者の皆さんとのふれ合いの場となったことはとてもよいことです。ただ、後日外部の方から、桐光学園小学校の保護者から自分の子どもが怒鳴られてとても恐い思いをしましたというようなお電話をいただきました。どのようなことがあったのかわかりませんが、ちょっと残念なことでした。

## 【冊子配付について】

ベネッセで作成した小冊子を本日配付いたしました。子どもの「なぜ?」「知りたい!」を引き出す本とありますが、私たちが子どもと接する際に心がけなければならないことを示してくれている冊子ですので、ご家庭でお子さんと一緒に読みいただければと思います。